

## 第2回 大宮地区学校適正配置地元代表協議会議事要旨

1 日 時 平成31年2月16日(土) 13時15分～15時30分

2 会 場 大宮台自治会館 2階和室

### 3 出席者

(1) 委 員 10人

(2) 事務局 5人 \*教育委員会 企画課 伊原課長、古屋課長補佐、望月主任管理主事  
岩脇管理主事、吉田主任主事

(3) 傍聴者 15人

### 4 報告・議題

- (1) 【報告1】各団体より(前回協議会以降の動き)
- (2) 【報告2】事務局より(統合校の効果について)
- (3) 【議題1】大宮地区学校適正配置(案)について
- (4) 【議題2】議決の方法について
- (5) 【議題3】次回開催日時・場所

### 5 会議資料

- (1) 資料1:「統合小・中学校のアンケート調査結果」
- (2) 資料2:「大宮地区学校適正配置(案)について」
- (3) 資料3:「統合校の議決について」

### 6 議事の概要

#### (1) 【報告1】各団体からの報告(前回協議会以降の動き)

大宮小では2月8日に保護者会を開催し、PTA会長から第1回の地元代表協議会の内容を説明した。大宮台小では、第1回協議会の開催後にPTA総会で適正配置に関する議論を行った。大宮中学校では、教育委員会が保護者説明会を開催し、大宮地区学校適正配置(案)についての説明を行った。

#### (2) 【報告2】事務局より(統合校の効果について)

資料に沿って事務局が説明を行った。効果について大宮地区の事例に近い事例があれば、再度資料として提示することとなった。

#### (3) 【議題1】大宮地区学校適正配置(案)について

今後の協議の方向性によって検討内容が変わることもあるが、小学校の統合を検討する参考として、資料に沿って事務局が説明を行った。

#### (4) 【議題2】統合校の議決について

選択肢として統合校の設置場所を大宮小と大宮台小の二つにし、大宮中学校を地区に存続させるという内容へ修正し、次回再度提案することとなった。

#### (5) 【議題3】次回開催日時・場所について

地区全体としての地元説明会は開催しないことが確認された。今回の協議内容について、各委員ごとに所属団体での意見集約を行い、次回協議会で再度協議することとなった。

## 7 発言要旨

### (1) 会長挨拶（廣瀬会長）

これまでも申し上げてきたことであるが、地区のことを考える上で協議会は重要な会議となるのでよろしくお願ひしたい。各所属の団体としての意見だけではなく、大宮地区を代表する立場であることを意識してご検討いただき、各委員からのご意見を伺いたい。

### (2) 協 議

#### 報告① 各団体からの報告（前回協議会以降の動き）について

- 〈廣瀬議長〉 前回以後の各団体の協議の状況があれば報告をお願いする。大宮小からまずはお願いしたい。
- 〈鹿倉委員〉 第1回協議会の後、2月8日に保護者会を開催し、協議会の内容を説明した。現段階で行われている説明内容に基づいて開催させていただいた。その際に保護者から、これだけは伝えてほしいというご意見を預かり、資料としてまとめたのでお配りしご報告したい。
- 【資料の配布 → 鹿倉委員より資料内容の説明】
- 〈鹿倉委員〉 資料のような内容を含めて役員の間で協議をしたが、学区外申請したらよいのではないかと、スクールバスのこと、小中一貫校化になった場合9年間同じ所で生活することに不安があること、将来的に入学してくる幼稚園や保育所の子どもたちの保護者達にも説明を行っていくべき、統合する前に通学路の説明をしてほしい、統合範囲全体での説明会を実施した方が協議が円滑になるのではないかと、PTAで手紙を出したり説明会を開催したりしているが、PTA名義ではなく地域の名義で出してもらいたいほうが良い、窓口がPTAになることで役員が非常に困惑している、PTAが主導で動いているという誤解をしている方もおり、手紙やアンケートを出す場合でも統一した形で協議会として出してもらいたいといったような意見が寄せられている。
- 〈鹿兒島委員〉 大宮台小では第1回協議会の後に先日PTAの総会があり、その場で協議状況の報告を行い、今後の対応について議論した。資料を作成して協議会での協議の経過を報告した。その中で、統合はやむを得ないとの意見はあったが、説明会の段階で小中一貫について説明を受けていたという認識が共有されており、そこまで踏み込んだ検討についても意見を伺った。保護者としては現状どうしていいかわからないところがあるが、これから将来的に必要なのであれば、賛成するとの意見があった。第2回開催に向けて意見を伺ったが、出た話として、改修工事の期間中の2年間で、大宮小または大宮台小どちらかの仮校舎に移動しないといけない子が出てくるが、可能であれば空き教室を活用したり、プレハブ校舎を設置したりするなど、もっと柔軟に現存する校舎を使用して、移転のない統合を検討してほしいと意見が出ている。これは、保護者の学校への送迎負担が長期化することを避けたいということだろう。発展して小中一貫のことを考えると、中学校の校舎を修繕して活用しながら、工事を進めるという方策も考えられるのではないかと。実際エレベータ設置工事等の際も、学校が使えなくなったということではなく、校舎に居ながら工事を行っている。そのほうが2年間の間に上手く移行できるのではないかと。その他には、会長一任として、統合と小中一貫で協議を進めてよいということを確認している。本来であれば2月9日に授業参観と併せてPTAで適正配置の説明会を開催する予定だったが、荒天により授業参観が順延となった。後日改めて報告することがあれば協議会でもお伝えしていく。
- 〈伊藤委員〉 先週中学校の保護者説明会を開催し、数名の参加があった。総会ではまだ協議していないため、特段保護者の意見というものは伺っていないが、総務委員会や学校と話をする

中では、中学校の話は違うと感じている。また、小学校については、大宮台小が子どもの数が少なくなるため、統合もやむを得ないとの見解を伺っている。今後については、大宮台小の保護者から中学校の小中一貫校化は適切ではないという声があった。学校設置の沿革として、大宮小の大規模校対策のために大宮台小が分離されて設置された経緯があり、それが元に戻るような統合で良いのではないかという声もあった。団地内の子どもは、大宮小と大宮台小へ分かれて通学しているが、子どもたちがコミュニケーションをとるために子どもの集いを実施している。どのような議論の方向になるのかはわからないが、今後は中学校の保護者を対象にアンケート調査を実施し、結果に基づいて協議会で見解を述べていきたいと考えている。また、ある保護者からの要望として、第1回の議事録がまだホームページに公開されていないので早急に対応を求めること、協議会の委員構成として、大宮小関係者と大宮台小関係者の比率を地区の人数規模の比に合わせるべきではないかとの要望も受けており、事務局に提出させていただく。

〈廣瀬議長〉 他に自治会その他の関係で話が出ていれば、報告をお願いしたいがどうか。

〈加藤委員〉 保護者の方から個別に伺ったことがあったが、ある保護者から統合校が大宮小に設置された場合は、大宮台小ではなく平山小に通学するという声があった。平山町は高齢化が進んでおり、大宮地区に通学している児童は少ないので、意見を伺っても大きな反応はないかもしれない。ただバスの事は検討してほしい。

〈廣瀬議長〉 大きな話題としては、小中一貫校化について話は出ているか。

〈鹿倉委員〉 もっと時間をかけて検討すべきとの意見が多かった。統合については必要かもしれないという認識はあるが、協議の進め方が急ぎすぎていると感じる。小中一貫については、7割は反対という意見が入っている。また、保護者の意見として、統合に向けて、地域同士のコミュニケーションや、運動会や遠足の合同開催などの学校同士の連携を進めた上で、統合になれば、みんなが納得できるし、それからでも遅くはないのではないかと声があった。

〈廣瀬議長〉 今年3月に協議を終えて、6月に要望書内容を検討するのは早すぎるという提起だろう。この協議会における要望の時期を延期することについて問題はああるか。

〈事務局〉 いつまでに統合してほしいということは決めておらず、協議会全体として納得した上で結論をいただきたいと考えているので問題はない。そのため6月の要望書提出にこだわるわけではない。議論をしっかりと重ねていただきたい。

〈廣瀬議長〉 議論は今後も継続していきたいが、次回にこの協議会を4月以降も継続することについてはこの委員構成で協議していくということにしたいがどうか。また、小中一貫校化について、まだ委員の間でも理解が深まっていないように感じるがどうか。

〈伊藤委員〉 先般の中学校保護者説明会の場でも、この地区は別に限界集落ではなく、小中一貫校化により子どもの数が増えるわけではないので、再考してほしい旨、教育委員会には伝えている。事務局に質問したいが、子どもの数は、減少するとして児童生徒数の推計を提示されているが、20～30年後には街に住む人の入れ替わりがあると思う。施設一体型小中一貫校化にしてしまっただけでは対応はできるのか。寧ろ学校新設といった事態もありうるかもしれない。地区の将来を考える上で、5～6年先ではなく、10～20年の期間を見据えて学校の在り方を検討すべきではないかと考えるが、事務局としてどう考えているのか。

〈事務局〉 統合により児童生徒数が増えることで魅力ある学校づくりを行い、地域の活性化にもつながっていくと考えている。また、市全体として子どもの数が減少することが見込まれている中で、大宮地区で子どもの数が爆発的に増加するという事は考えにくい。児童生徒数

推計よりも多く子どもの数が増えた場合に対しても、ある程度は余裕を持った校舎配置案となっている。

〈伊藤委員〉 何年先まで児童生徒数推計を行っているのか。

〈事務局〉 まず、教育委員会としては児童数が減少していくという前提条件で検討を行っている。確かに施設一体型での小中一貫校化を行った場合、地区に学校が1つしかなくなるというご心配があると思う。教育委員会としては2つの段階を考えており、まずは小学校の統合の方向性について考えていきたい。さらに、中学校が3学級になる場合に、施設一体型として小中一貫校化を行うのかということである。色々ご心配をおかけしており申し訳ないが、今回提示した（案）は、地区のいくつかの団体と対話を進めていた中で、中学校の単学級への見通しに対して対応を求める要望を受けたためである。まずは小学校の統合を考える。地区が一小一中になる際に小中一貫校化を検討するというのはどうか。次に、児童生徒数推計について、住宅開発の動向にも左右されるが、正確性を保った上でお示しできるのは、住民基本台帳情報の裏付けがある6年後までである。その先については、女性の出生の想定もあり正確性に乏しいためである。今回の提案は6年間の中で大宮小と大宮台小の児童数が減っていくという仮定で作成している。

〈廣瀬議長〉 市全体での人口推計は何年先まで見通しているものなのか。

〈事務局〉 教育委員会では学校適正配置の実施方針の中では、あくまで6年後までの推計に基づいている。

〈廣瀬議長〉 6年間の短期の期間設定で計画していくことについて、問題はないのか。

〈事務局〉 第3次千葉市学校適正規模・適正配置実施方針では、推計値については6年間分を算出しているが、毎年最新の数値へ改定を行っている。さらに長期的な視野で計画しているものもないわけではなく、学校施設の側面で学校施設課が検討しているとは聞いている。

〈廣瀬議長〉 そういった計画と整合をとりながら、大宮地区では子どもの数は横ばいか減少傾向ということで計画していくということで良いのか。

〈伊藤委員〉 恐らく13年後くらいまでの推計は出ているはずであろう。その中で、どこかの時期で大宮小は児童数が増える年度が出ていたと記憶している。7年後くらいから大宮小が増えていく結果になっていたように記憶しているが、その時点になると、教育委員会ではあくまで将来推計なので増えるのか減るのかはわからないと、第1回協議会や保護者説明会の中で説明を受けている。大宮小は増える時期があるかどうか確認しておきたい。

〈事務局〉 公開はしていないが、ご指摘のとおり増加する算出結果がでてくる時期はある。女性人口を基に、子どもがどれくらい出生して、どれくらいかの割合で学校に就学するかを推測して算出している数値はある。

〈廣瀬議長〉 仮にある学年で2学級となる場合が生じて、余裕がある考え方になっているのか。

〈事務局〉 校舎の改修を考える中でもある程度は想定している。

〈廣瀬議長〉 学級数が増える年度の生じる可能性があることを念頭において進めていくべきだろう。

〈鹿兒島委員〉 実際に小学校の統合の協議から始まった現状があり、そこから小中一貫校化を見据えて検討してきたなかで、何十年先というお話も出てきたが、小学校では6年間、場合よって3年間くらいのスパンで考えていけないといけない。20、30年後には中学校同士での統合も当然の状況になるかもしれない。協議会設立の際の原点に立ち返り、小学校の統合を結論付けた上で、小中一貫校化の検討を進めるのはどうか。小学校にいる子どもたちの問題として取り上げていただくのが本筋である。3年生以下の保護者の間で話をしていたかどうか検討したところ、会長に一任すると言われた。実際には今通学しているよりも年少

の子どもたちの問題でもあるだろう。可能であれば、小中学校同士での意見が平行線となる状況が続くくらいであれば、地域全体の事を考えていかなければならない中で、協議会委員からPTA会長を外すくらいのことがあってもよい気持ちである。今すぐにでなくてもよいが、原点である小学校の統合について協議をしていただいて、進めていっていただきたい。

〈廣瀬議長〉 小中一貫校を検討せずに小学校だけ議論するとなると、第1回での協議の結論を元に戻すということになりはしないか。

〈鹿児島委員〉 戻るということではなく、小学校の統合議論を中心として、その延長として小中一貫も考えてはいくということである。

〈伊藤委員〉 中学校は改めて検討を進めるとするならば、ひとまずは小学校の適正配置に議論を絞るのはいかがでしょうか。

〈松坂委員〉 平成30年11月24日に開催された地元説明会においては、小学校の統合でスタートしている。その後、協議会委員を決定するときには、学校適正配置の地元代表として、地区の学校適正に関する協議会とすることが前回決定している。その中で、小学校の統合だけではなく、地区の学校適正配置に関わる協議会として設立されたものと理解している。前回では小中一貫校化までの議論を入れて進めていくことになったと思う。第3回までに協議会としての意見をまとめようということになったと思う。後戻りするのではなく、小学校に絞らず学校の配置について議論をまとめるべきではないか。その中で、地元への説明不足を補うために説明会を開催したとして、第3回では終わらずに、以後も第4回、5回と続いていくかもしれない。3月には自治会の役員の改選も予定しており、自治会長が出るべきなのか、今回の委員が継続していくのかということとは協議していただきたい。

〈廣瀬議長〉 会長としての意見を申し上げれば、協議会の委員は役職で決定するのではなく、もし可能であれば、今年度の委員は地区をどうするかということで集まっていたいており、現状の構成で来年度以降も協議を継続したいという気持ちはある。

〈鹿倉委員〉 小学校の統合に関しては、もっと時間をかけて協議を進めたいというのが本音である。ただ、大宮台小の子どもたちの置かれている状況は耳にしており、一日でも早く環境を整えたいという大宮台小の思いもよくわかる。かといって、急ぎすぎるのは良くないのではかという気持ちもある。大人にとっての1年間と子どもにとっての1年間は意味合いが大きく違う。統合の話これから進めていく中で、適正配置（案）では最短でも2020年度以降の開校ということがあったと思う。統合を考えていくのであれば、地域や学校の交流を今の内からしっかり行った上で、今から大宮台小の環境づくりを進めたいと思っている。子どもたちが一番良い形で結論が出せるようにしたい。

〈鹿児島委員〉 先ほど指摘のあった原点に戻すということについては、松坂委員のご意見のとおりである。先ほど申し上げた小中一貫校化ということについては15～20年後ということを視野にするのではなく、第1回での協議結果もある以上、やるならば今からという意味合いである。

〈廣瀬議長〉 協議会の延長ということを協議させていただき、その中で何を議論していくかということだと思う。正直15年先のことは誰にもわからない以上は、最も現実的な想定をしていくべきではないか。そのあたりも含めて次回ご意見を伺って決定していきたい。

## **報告② 統合校の効果について**

〈廣瀬議長〉 資料の説明について事務局に願います。

- 〈事務局〉 【 資料1に沿って説明 】
- 〈加藤委員〉 アンケート調査を行った対象として、通学区域が広範にわたるような事例はこれまでにあったのか。統合の検討にあたっては、通学の問題が一番の課題になるだろうと思う。
- 〈事務局〉 これまでの統廃合の事例では、学校同士が近接している地区が対象であった。大宮地区ほど距離が離れている事例は実績としては初めてのケースである。
- 〈加藤委員〉 特に小学校低学年について、通学の問題が一番大きいだろう。それを解決しないといけない。スクールバスをどうするかなどをまず詰めていかないといけないのではないかと。
- 〈事務局〉 第1回の協議会でもご説明したとおり、周辺自治体への調査を行った中で、児童生徒の利用率が低いといったことなど、スクールバスの使い勝手は必ずしも良くないとの見解を伺っている。もし導入を検討することとなれば、地域にヒアリングを行い、どういうことがメリット・デメリットになるかを提示し判断し、協議会でも検討いただきたいと考えている。
- 〈伊藤委員〉 白井小学校はバス通学が認められていると思うが、通学区域は最大どのくらいの距離になっているのか。
- 〈事務局〉 4キロメートルを超えているかというところである。
- 〈伊藤委員〉 1つの学校で4キロメートルを超える通学区域を抱えている事例がまた出てくるといことだろう。バス通学の講習を実施している白井小学校は、バスの利用が7割ぐらいあると聞いている。
- 〈廣瀬議長〉 アンケート結果を参考するのに注意しないといけないのは、これまでの統合事例が、統合して複数学級になった事例ばかりであることだろう。この地区ではそういった状況は望みにくいいため、必ずしもアンケートがこの地区に馴染むのか気にはなる。規模的に状況に近い事例があるとするならば、この中でも花島小くらいではないか。統合の結果については、市内では大宮地区に近い事例はあまりないようである。統合した後の結果について、最も適した資料がないか探してみたことがあるが、もしもっと適した資料があれば今後事務局から提供してほしい。
- 〈事務局〉 ご指摘のとおりこれまでは統合しても複数学級にならない事例はなかったため、より適した資料があれば提示したい。

#### 議題① 大宮地区学校適正配置(案)について

- 〈廣瀬議長〉 資料は小中一貫校化を見据えた内容となっており、今後どのような方向性になるかはわからないが、小学校の統合検討に向けた実態を確認する意味でも、まずは事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 【 資料2に沿って説明 】
- 〈伊藤委員〉 保護者からの要望として伺っているが、中学校を議論に含めないならば、お互いの学校のままで改修工事をしなくても統合できるのではないかと。中学校のことを想定するから改修工事が必要になるのだろう。現状それぞれの小学校のなかでスペースの余裕はあると思うがどう考えているのか。
- 〈事務局〉 そのまますぐに統合するというご希望があるならばそのように対応を検討することも可能と思われるが、統合による改修工事を実施する場合、国の補助を受けて実施する場合がある。その費用を使って、配管等の目につきにくい部分まで整備するのが良いと考えている。
- 〈加藤委員〉 校舎の建て替えは実施しないという理解でよいのか。

- 〈事務局〉 あくまで、既存校舎の整備となることを検討している。
- 〈廣瀬議長〉 大宮小と大宮台小の学校の特色として、環境面等、端的な違いは何なのか。
- 〈事務局〉 大宮小はいきいきセンターがあるなど地域コミュニティの中心に設置されていると考えられ、様々な機関と連携した教育が行えるメリットがある。大宮台小は、中学校と隣接しているため、中学校との交流がしやすことがメリットと考えている。
- 〈伊藤委員〉 北大宮の地区の子どもが大宮台小に通った場合に通学負担が軽減されるということだが、大宮台小は通学路の中で歩道がない区間がある。そういった通学路があるなかで、何故軽減ということが出来るのか。安全を確保できるのか。
- 〈事務局〉 安全面という意味では、安全指導員を配置する等して安全確保していきたいが、距離としては軽減されると考えている。
- 〈宮崎委員〉 数百メートルの違いで軽減とまではいえないのではないかと。
- 〈廣瀬議長〉 設備面では、両校は同じ仕様と考えてよいのか。
- 〈鹿倉委員〉 学校に入っている施設には違いがある。大宮小にはいきいきセンターや子どもルームが現状設置されている。そこに関しては、子どもルームの利用保護者からは統合を心配する声を聞いている。
- 〈鹿兒島委員〉 大宮台小では子どもルームが設置されていない。細かい違いをお互いに挙げていっても、議論が進まず進歩が無くなってしまう。統合小学校の場所がどちらになったとしても、いずれは中学校だけは残ることは確かである。通学の距離では、多部田や平山から通学している児童は変わらないかもしれないが、大宮小に通う子どもたちにとっては距離が延長されることになるだろう。そこでスクールバスの議論が出てくると思うが、難しい場合も自転車通学の許可は確保してほしいと保護者から話があった。安全の面では、100パーセント事故が無くなることは現実的にはないだろう。ただ、可能であればスクールバスの導入はお願いしたい。将来的に中学校の統合を考えた場合は、スクールバスを利用することで議論が進めやすいということはあるだろう。実際の自分達の子どもはすぐには大きくなるので、もっと小さい子どもたちのためにとということになると思うが、今結論を出してあげたい。いずれにしろ結論には賛否両論あるだろう。

## 議題② 議決の方法について

- 〈廣瀬議長〉 議決の方法については、事務局から協議の提案が出ているが、今回決定しないと支障があるのか。次回以降に検討ということで良いか。
- 〈事務局〉 基本的には問題はない。
- 〈廣瀬議長〉 議決の方法も含めて、その他何かご意見等はあるか。
- 〈本澤委員〉 地元への周知が不足しているとか、どのように周知していくのかといったことを次回開催までに協議する必要があるのではないかと。
- 〈廣瀬議長〉 もう一度地区全体として説明内容を統一して説明会を開催するというので良いか。
- 〈鹿倉委員〉 大宮小としては、大宮台小と連絡をとって同じ文書を同じように発信していこうとしている。それぞれでお知らせする内容が違わないように、お互いの地域の人たちが混乱しないようにするため連携している。話を聞いていると、色々なところで噂話が先行して出ている。もし可能であれば、関わっている全ての地区で、幼稚園や保育所関係も交えて、統合する地区の全員が集まって、一斉に説明会をしていただくと、協議がスムーズに進む部分もあると思い、提案したところである。
- 〈事務局〉 要望があれば説明会は開催させていただくが、また同じ説明内容になると思われる。地区

の現状、将来の児童生徒数の状況、統合のメリット、教育委員会としての学校適正配置の案など、以前と同じ内容で良いのか。あるいは、協議会から踏み込んだ内容を取り入れるよう要請いただいて説明に含めていくのか。まずは小学校の統合を検討し、検討しても全校で6学級であること、中学校は将来的に3学級になる可能性があり、小学校の統合後は一小一中の学区になることを地域に説明した。その結果、中学校の将来を見据えた検討をすべきとのご意見をいただいた。そのため、説明会での内容として、まずは小学校の統合のみに留めるべきなのか。あるいは小中一貫校も含めるのか。

〈廣瀬議長〉 まだ委員により意見が分かれているようだ。小学校の統合と小中一貫校化をそれぞれ分けて説明するしかないのではないか。また協議会ではここまで検討しているという説明になるのではないか。

〈事務局〉 小学校の統合が決まったら、中学校はどうするかという提示をしていきたい。説明会を開催する場合、中学校についても考えている程度に留めるのか、案としてまとめて説明しても良いのか。

〈伊藤委員〉 先日の中学校の保護者説明会でも意見をしたが、小中一貫校を考えるととなった場合は、千城小学区から通学している生徒がいる。小学校の適正配置の状況が固まった段階で千城小関係者へ説明を行うと先日伺ったが、それはいかがなものか。小中一貫校を考えるならば、千城小関係者も協議の枠組みに加えることを提案したい。

〈事務局〉 千城小については、来年度に保護者と地域への説明を行ってほしいと伺っているので、要望に沿って進めたいと考えている。資料3について、資料内容を確認したい。小学校の統合場所をいずれにするか協議会で決定していただきたいが、その下にいずれの場合も施設一体型小中一貫校化に関する記述を掲載している。これは小中についての地域の代表者の方からの声を入れているが、いずれの小学校になるにせよ、将来中学校が3学級になる頃には適正配置の協議に伺うことになると思う。小中一貫校化に関する表現、説明の仕方は現状としてどのようにしていけばよいのか伺いたい。ある程度その考え方を協議会で示していただくと、説明会などでも説明がしやすいかがか。

〈本澤委員〉 将来的に中学校が議論の対象となるころには、小中一貫校化だけではなく、隣接する白井中や更科中学区との統合で、そちらに中学校が動くようなことにはならないか。後々に後悔することがないようにしたいが、どうか。

〈事務局〉 遠い将来では、どうなっているかはわからないが、少なくともこの6年間の児童生徒数推計を行っているなかで、白井・更科中は学校間の距離が遠すぎると考えている。自転車通学も現実的ではないだろう。

〈宮崎委員〉 資料の但し書き部分を書き添えるのは、本日の議論の方向性にそぐわない。あくまで「①」「②」の選択肢のみに絞り小学校に焦点を絞るべきで、必要な時に中学校のことを検討するということが良い。

〈松坂委員〉 地区の学校適正配置を考える中で、地区から学校が小中ともに存在しなくなるわけではないのだろう。学校が残るということであれば、地区の学校適正配置は検討の土台は小学校であるが、ゆくゆくは中学校まで考えないといけないならば、この項目は盛り込むべきだろう。小中一貫校化を目指すことになることを入れた方が良いとは思う。以前の地元説明会では小学校の統合に焦点があたっていたので、急になぜ小中一貫校化が出てきて中学校まで含めるのかという声が多かったのだろうか。将来的には1つの学校は存在するから、将来的には必要であることとして、次回からも検討すべきと考える。

〈鹿児島委員〉 第1回の議事内容としても、小中一貫校化に向けて進めていくとして議事録にも出ている



と思うが、このまま入れていくべきだと思う。

〈伊藤委員〉 要望書の内容として、今回は小学校の統合のみで中学校の適正配置は見送るという内容になることについて問題はないという理解でよろしいか。

〈廣瀬議長〉 小学校の結論がでない、議論が先に進まないか。手順としてどのような順序で検討を進めていくべきか。

〈鹿児島委員〉 学校の声を吸い上げてきたつもりであるが、9月に保護者説明会を行ったが、そこで参加できなかった人でもいろいろなご意見があったかと思うが、これまでの協議の流れについてこのまま進めていくのが良いという総意が得られた。先ほど本澤委員のご指摘があったとおり、いずれは中学校同士の適正配置を検討する時期が出てくると思う。この機会を逃したら、大宮中学校もなくなる可能性が出てくるくらいのことも考えて議論をしていた。大宮中学校が残る選択肢がある今回の機会をとらえて、小中一貫校化する。15～20年経過したら市全体の情勢も変わってくるであろうし、そのときにまた検討していくということではよいのではないか。地元代表協議会という組織を設立している以上、この場で決めていくということだろう。

〈伊藤委員〉 中学校の立場としては、中学校を議論の枠組みに入れてほしいという声をあげたことはない。小学校の間で中学校のことについて議題になっていることには、違和感を感じる。保護者から中学校が無くなるかもしれないから、小学校に混ぜてくれと依頼したことはない。

〈廣瀬議長〉 今の教育をめぐる情勢を鑑みると、遠くない将来に千葉市でも小中一貫校化は進んでいくものであると考えないといけない。もし、小中一貫校で子どもを学ばせたいという保護者がいれば、既に小中一貫校になっている学校に流れて行ってしまふかもしれない。小中一貫校を巡る動向としては、特にそのような流れが多くみられるようだ。

〈宮崎委員〉 大宮地区で小中一貫校化したとしても、市の第1号となるということだろう。文部科学省が推進しているなかで、全国的にモデル校となっているところもあるが、個人的には大宮地区で導入することについては反対の意見である。千葉市ではまだ事例がなく、これから方向性がどうなるかは不透明である。中高一貫校は私立の学校の間で既に多く存在している。小学校と中学校では教育内容は大きく異なっており、真に一貫した教育が実践できるのか疑問である。文部科学省が提唱しているだけであり、教職員の削減というところが本音ではないか。中学校ではどんな小規模校であっても全ての教科に対応できる担任の人数をそろえないといけない。小学校では、中学校の専科教員に授業をしてもらい融通をきかせることができる。もう少し、小中一貫教育というものについて慎重に検討すべきと考える。

〈伊藤委員〉 鹿児島委員や本澤委員が心配されているような地区から中学校が無くなるのではないかとということについては、将来的に地区に中学校は残すこととして要望に盛り込めば済むものではないか。

〈鹿児島委員〉 おっしゃる通りの部分もあるが、これから将来的には何があるかわからない。中学校も無くなるかもしれない。その時に学校に就学している子どもたちにとって適切な教育環境が整っていれば何も問題はない。中学校が残るのに越したことはないが、将来の状況に応じて考えていかなければならないだろう。

〈宮崎委員〉 中学校は残すという内容を盛り込んでおいて、中学校の統合の枠組みを検討する時期が来た時点で、川戸になるのか千城台なのかかわからないが、その時の状況に応じて検討すればよい。それまでは中学校は残すということで協議を進めて、要望書として提出するということが良いと思う。

- 〈廣瀬議長〉 小学校の統合場所を大宮小と大宮台小の2つの選択肢に絞り、前提条件として大宮中学校は存続させるという方向で次回以降から協議を進めてよいか。
- 〈松坂委員〉 11月24日の地元説明会への参加が80名程度であったなかで、地区全体でどの程度適正配置に関する理解が得られているのだろうか。説明会への参加のため、自治会内で事前に回覧で周知したが、実際には4、5人ほどしか参加がなかった。地区全体でかなりの関係者の人数がいる中で、どこまで一斉に説明をしていくのか。会場の問題など現実的のどのよう協議を進めていくのか。次回の協議会議事内容として計画されている要望内容の作成という前に、今一度理解を深めていただいて、協議会を開催するというのも良いかもしれない。協議の内容としては、大宮地区の学校の適正配置をどう考えるかということについて進めていけばよい。その中で当面の話題としては、大宮小と大宮台小になると思うが、ゆくゆくは中学校の議論も出てくるのが考えられるため、小学校に限定して議論する協議会ではないと思う。あくまで話題や説明は小学校の統合のみで、中学校は存続させる、その先には小中一貫校化という方策もあると補足するくらいでよいだろう。そのような説明が第1回地元説明会でなされていなかったから、小学校だけの議論のはずだろうという意見が出ている状況である。
- 〈廣瀬議長〉 大宮地区学校適正配置地元代表協議会として組織がされているわけであるから、地区の学校適正配置を検討するのが本来の在り方だろう。
- 〈松坂委員〉 まずは小学校だけが議論の最初の焦点だろう。第1回での地元説明会の様子をみると、中学校の議論が突然出てきたという印象がもたれることは理解できる。地区の学校の適正配置を考える会とすればよいのであって、小学校の協議だけにするとわかりにくくなると思う。ゆくゆくは中学校の在り方を考える状況が出てきたら、小中一貫校化という方策もあると補足説明する程度でよいと思う。そのあと、意見を聞きながら議論を進めるということではどうか。
- 〈事務局〉 説明会は要望があれば開催していくが、内容として現状はこうで、将来的にはこうなるため、大宮小と大宮台小の統合をお願いしますと、中学校については将来的に全校3学級となるのが考えられるので、対応も検討はしているという程度の説明でよいか。これまでもそのように説明してきたつもりであるが。
- 〈前田副会長〉 地元説明会でも、中学校は残すということを明文化されていたように思う。
- 〈事務局〉 説明会は同じことを再度行うということではよいか。
- 〈松坂委員〉 先日の説明会では説明が不十分であるように感じられるため、今一度開催してはどうかという提案である。
- 〈鹿倉委員〉 大宮小ではもっとわかりやすく説明してほしいという要望が上がっているため、できればしっかり協議会で伝えてほしいということで、今回ご意見をさせていただいている。
- 〈松坂委員〉 先日の地元説明会では開催の周知を行ったが参加は少なかった。再度開催しても恐らく状況は変わらないだろう。ただし、協議会の名称のとおり、地区全体の学校適正配置についての協議会となっているため、小中学校や場合によっては高校についても考えるが、当面は小学校の統合を話題にしていくという説明会にすれば良いと思う。ご意見としてもう一度説明会を開催してほしいという声があるならばそのように開催していくことだろう。
- 〈石井副会長〉 説明会は何度実施しても大きく協議の方向性が変わることはないだろう。実際に参加しても内容が全てについて理解されるとも限らない。
- 〈鹿倉委員〉 確かに関係する全員が理解し、納得することは現実的に難しいだろう。先ほどもご意見し

たが、PTA会長として参加しているのに、何故協議会で話を通してこなかったのかといわれる状況がある。協議会として説明会が必要ないと判断するのであれば、その旨をしっかりと協議会として決めたということを出していただきたい。そうでないと、何故やってくれなかったのかということが明確にならず、また同じことを繰り返す可能性があると思う。

- 〈廣瀬議長〉 世帯の中に子どもがいるかいないか、また子どもの年齢によっても関心の度合いは違うものなのだろう。今後協議を円滑に進めるために、説明会の実施は必要かもしれない。
- 〈鹿兒島委員〉 大宮台小の立場としては、説明会には参加しない、だから議論の方向性については一任するというので参加している。そのため、説明会には特段参加しないという方もいるだろう。したがって決定された内容をそのまま周知するのみということもあるだろう。
- 〈鹿倉委員〉 大宮小としては、説明不足であるという意見が多数を占めているため、説明会を再度開催してほしいという声は既にあがっており、大宮小の説明会が開催できるか事務局と調整を行っている。その中で、大宮小だけで開催すると、他へ噂のような形で地区全体に流れてしまうこともあるので、全体で一括して行われれば噂話が先行することもないだろう。
- 〈廣瀬議長〉 地域全体で関係する方を一堂に集めて開催することは、現実的には困難だろう。協議会は地区を代表する方に集まってもらって議論する場であるものと理解している。
- 〈鹿倉委員〉 代表として参加している以上、個人的な判断で決議に参加させていただくこともあるだろうと保護者には伝えている。それに対して、代表としてふさわしくないという判断がなされるのであれば、新しく代表を立ててこの場の会議に参加させていただきたいということは話し合っている。
- 〈前田副会長〉 結論を報告してこいということなのか。
- 〈鹿兒島委員〉 その中で協議会のなかで意見がどのような割合で分かれるのかは別として、意見が割れることは当然あるだろう。いずれにせよ、地区全体として全てに合意形成を求めるならば、代表者会議である意味がない。説明会へ参加しない人は、任せるという意思表示でもあるのだろう。参加している方たちが意見があるということなのだろう。
- 〈廣瀬議長〉 地区全体としての説明会開催は行わないということによいか。
- 〈松坂委員〉 個別の要請があるものについては、それぞれで進めていただき、全体で再度地元説明会を行うということはないと思う。
- 〈伊藤委員〉 中学校でも個別に要請をして、事務局が対応してくれるならそれで構わないという理解によいか。
- 〈廣瀬議長〉 その通りである。
- 〈鹿兒島委員〉 地元代表協議会主催としては開催しないということだろう。
- 〈本澤委員〉 ホームページに議事要旨を早めに公開することも、説明会参加への動きへつながることになるだろう。
- 〈事務局〉 確認させていただきたいが、選択肢としては、①統合校の設置場所を大宮小にする、②統合校の設置場所を大宮台小にする、①と②のいずれにしても大宮中学校を存続させることとするということで、地元代表協議会の決定として良いのか、所属団体へ持ち帰って各所属団体で諮って、次回この方向性でよいか確認をして、協議を進めていただきたい。次回の3月の協議会で投票により統合校の設置場所を決定する想定であったが、3月に決定することについては一旦延期することとし、投票日について次回に協議することによろしいか。
- 〈廣瀬議長〉 3月の協議会で議論が進んで、そのような状態になればその時に行うということの良いのではないか。

〈事務局〉 次回選択肢を修正し、改めて提案する。

### (3) 連絡

- ・第3回協議会は、平成31年3月16日（土曜日）13：15から15：30までに開催することとする。開催日から1～2週間前を目安に、開催案内を各委員は送付する。
- ・所属する団体への第3回の開催日時の案内をお願いしたい。傍聴も可能である。
- ・前回同様、各委員の修正確認を踏まえて、教育委員会企画課ホームページ上で議事要旨を公開する。FAXやメールによる方法でご修正確認の回答を受け付けたい。
- ・協議会を欠席する場合は、事務局に連絡していただき、その場合はできるだけ代理出席者を立てていただき、代理出席者の氏名を予め事務局へ伝えていただきたい。
- ・協議会に関する問い合わせは教育委員会企画課までお願いしたい。